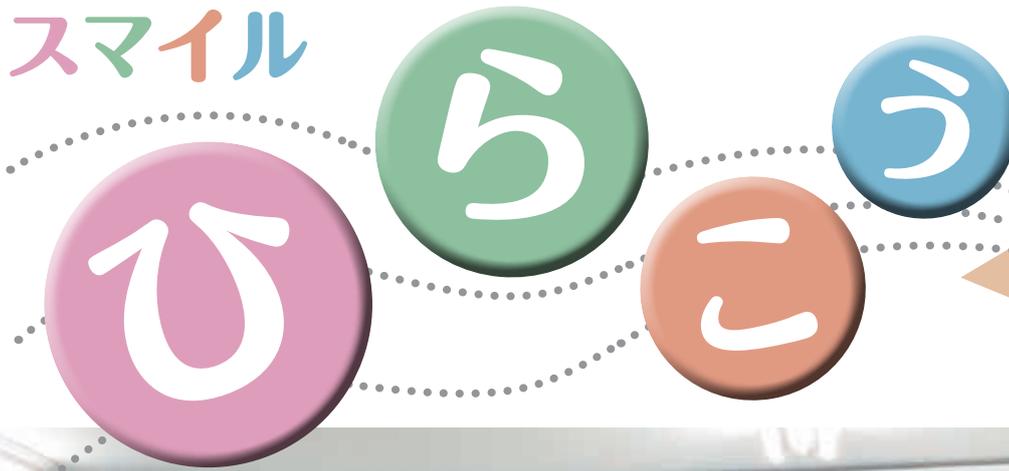


スマイル



特集1

レインボープロジェクト

特集2

第1回北河内心疾患多職種勉強会

X線骨密度装置について／多焦点レンズのご案内

レインボープロジェクト



レインボープロジェクト開始に寄せて

先生方には日常診療において連携誠にありがとうございます。枚方公済病院循環器内科では平成29年9月より心血管疾患二次予防プロジェクト（レインボープロジェクト）を開始いたしました。これは、心血管疾患（虚血性心疾患、心不全、心房細動）で入院加療を受けられた方が再発予防のため、北河内、八幡、京田辺地区の医療職、介護職、患者様ご自身、ご家族が情報を共有しながら、再入院予防のため協力しあうことを目標にしております。

その目標のため、半年以上の時間をかけて枚方公済病院の多職種のスタッフで協力しながら知恵をしばって、心血管再発予防手帳（レインボー手帳）を作成しました。手帳の内容、使い方に関しては事務局のスタッフから個別あるいは研究会を通じて先生方にお伝えいたします。

レインボー手帳を通じて、患者様をとりまくいろいろな人が情報を発信し共有して、再入院再発予防という目標のため協力のほどお願い申し上げます。



循環器内科 部長
北口 勝司



レインボーの由来

- ①「虹」は老若男女が知っている
- ②「二次予防→にじよぼう→虹呼ぼう→虹を呼ぼう！」ダジャレです(><)/
- ③イメージ(希望、架け橋)

雨は人々にとって洗濯ものが干せなかったり外出できなかったり、気持ちを憂鬱にさせたりとnegativeに捉えられがちです。でも雨が降ったからこそ「虹」が生まれます。虹を見つけた時には感動があります。

疾患という「雨」を経験された方だからこそ見つけられる「虹」

心を歩かせる事ができる人は虹探しの旅を、見上げる力がない時は水溜りに映る虹があるかもしれません。それはご家族やご友人、介護の方々、薬剤師さんやケアマネージャーさん、そして医院または病院の受付の方々から始まる全スタッフの顔や一言、1粒の薬剤の増減かもしれません。

サポートを提供する個々にできる事は無限無形だと考えます。つまり我々は雨上がりの空に注ぎ「虹」を作る「太陽」になりうるのではないのでしょうか。



循環器内科医師
岡本 広太郎

レインボープロジェクトの願い

2025年には、後期高齢者人口は、2000万人、65歳以上が人口の30%となり、「多死時代」に移行します。そんな中、心不全患者数は、現在既に120万人を超え、増加の一途です。まさに、心不全は、common diseaseです。

心筋梗塞・狭心症、心房細動、そして心不全、こうした心疾患心をもつ高齢者の多くは、高血圧、糖尿病、慢性腎障害等といった併存症を抱えています。

そして、その併存疾患は、多くの場合、相反する病態を抱えています。つまり、高血圧では、早朝高血圧と起立性低血圧、糖尿病では、高血糖性アシドーシスと低血糖による転倒骨折や認知症、心房細動では脳梗塞と出血(消化管出血や脳出血等)、腎障害ではポリファーマシーと薬剤による腎障害といった具合です。

このため、自ずと治療闘は狭く、画一的な治療目標では、コントロールが困難になりがちであり、高齢者には、個々人に合った治療目標の設定と、生活の場でのきめ細やかな調整が重要です。

一方で、心疾患は一生をかけて付き合う疾患であり、高脂血症等の危険因子を含め、日々のコントロールが大切です。特に、心不全は、根治の望めない、進行性且つ致死性の疾患であり、急性増悪を重ねるたび、悪化してゆきます。心不全でご入院なさっていた患者様の多くは、病気を抱えた状態で、それぞれの生活の場に帰られます。一旦改善した心不全症状が再増悪する原因は、生活の場に隠されているのではないかと、そんな疑問のもと、当院では、2014年より、北河内地域における心不全の臨床背景を観察した多施設研究

～ KICKOFF レジストリー～を行っています。

本研究の結果から、非常に重要なことがわかってきました。心不全入院患者の平均年齢は78歳と高齢であり、その多くは、独居あるいは配偶者との二人暮らしという「老老介護状態」でした。それに呼応して、80歳以上になっても、半数以上の方が、服薬を自己或いは配偶者が管理されているという現状があり、その一方で、怠薬が心不全入院の主誘因の一つとなっていました。このことから分かるように、高齢者がご自身で服薬管理を継続することはとても難しく、一方で、生活の場での服薬管理、自己管理が心不全の二次予防に非常に大切であるというジレンマが生じているのです。

こういった当地域の現状を踏まえ、高齢者の生活をサポートするには、地域の介護や医療に携わる様々な職種の方の力が大切であり、病院の医師も、視野を院外に広げ、地域の介護・医療職の方々と連携する必要があると思います。「レインボープロジェクト」を立ち上げました。

心疾患の患者様が、再度苦しい思いをすることなく、安心して自分らしく生きることができるよう、病院でも生活の場でもサポートを継続することが、本プロジェクトの願いです。



HCU/CCU 部長
竹中 琴重

レインボー手帳の使い方

当院循環器内科では、5年前から心不全手帳を活用して心疾患の指導と治療を行ってきました。これまでの経験を通じて、「あったらいいな～」という思いを込めて多職種で新たに手帳を作成しました。

この手帳は、7色で色分けされた7つのパートから構成されています。赤とオレンジは、医学的な知識が書かれており、高齢の患者さんにもわかりやすいように絵がふんだんに使われています。黄、黄緑、水色、青はセルフチェックシートと心臓病パスのパートです。紫は、頓服薬と患者さんの基本情報について記入するパートです。

患者さんは、手帳を受け取ったら、まず紫のパートの基本情報（「わたしの基本情報」、「わたしの生活状況」、「わたしのサポート体制」、「わたしの情報」）に必要事項を記入します。ご本人が記入できない時は、ご家族や看護師さんに記入して頂きます。高齢患者さんの診療では、生活因子が心疾患増悪の原因となることも多く、患者さんの生活状況を知ることが極めて重要です。また患者さんにはこの手帳を外出時にできるだけ携帯して頂きたいと思えます。外出先で病状が悪化した時、基本情報は救急対応や搬送先の病院で、迅速かつ適切な診断・治療を行う上で貴重な資料にもなるからです。

もう一つ大事なパートは、セルフチェックシートと心臓病パスのパートです。セルフチェックシートは、患者さんが毎日血圧・脈拍・体重を測定し記録することで、早期に心疾患の増悪に気づき、指示された頓服を服用することや、早めに外来を受診することで再入院予防を目指します。シートを記入していく過程の早い段階で、主治医が再発予防に必要な個別の目標を3つまで「あなたの目標」に記入して患者さん

に示して頂きます。この時できるだけ具体的な内容にすることが達成のポイントです。患者さんにも「わたしの目標」という欄に3つまで、ご自身で考えた目標を記入して頂きます。これは、治療に対する患者さんの主体性を大切にしたいからです。シートは1年間記入できるようになっており、「わたしの目標」を立て、3カ月後に「達成度」を記入して振り返るということを4回行う構成になっています。

高齢の心疾患患者さんは、生活習慣、薬の管理、栄養面など様々な問題を抱えていることが多く、コメディカルの関りも必須になっています。この手帳では、セルフチェックシートに、医師とコメディカルが記入する欄を設け、患者さんに関わる医療従事者や介護従事者が情報共有できるような工夫をしました。今後、病院とかかりつけ医がこの手帳を心不全パス（情報共有シート）として活用できればと考えています。

さらに、患者さんが、病気を抱えながらもその人らしい人生を送って頂くよう、「楽しみ」と「人生の目標」を患者さんに関わるスタッフが共有できる欄を設けたり、患者さんと一緒に頑張り、ときには癒しとなるカエルを登場させることで、患者さんに寄り添う手帳としての役割も担わせました。

レインボー手帳が、今後心疾患の再発予防に少しでも貢献できるよう願っています。



循環器内科 医長
藤田 亮子



第1回北河内心疾患多職種勉強会

このたび、ラポールひらかたにて「第1回北河内心疾患多職種勉強会」を開催させていただきました（平成29年9月16日）この勉強会は、当院が推進しております北河内心疾患再発予防プロジェクト（通称「レインボープロジェクト」）の一環としまして、あらたに立ち上げたものです。

第1回北河内心疾患多職種勉強会には、医師17名、看護師33名、薬剤師34名をはじめとしてケアマネージャー、理学療法士、臨床工学技士など、病院内外のさまざまな職種の142名の皆様にご参加いただきました。座長はかいとクリニック院長・垣内成泰先生をお願いいたしました。演者としては、当院より医師2名（竹中琴重医師、藤田亮子医師）、看護師1名（川邊喜美看護師）が参加いたしました。また院外からは、「アイ・エスひらかた訪問看護ステーション」に勤務されている、南條律子看護師をお招きし、ご講演いただきました。川邊看護師からは、当院で行われている心不全入院患者に対する多職種カンファレンスについて、また、心不全再入院を予防するにはどうするべきか、と言った症例提示をさせていただきました。その中でも、訪問看護の導入によって心不全の増悪を未然に防ぐことができたという事例がありましたが、最後のセッションでは、訪問看護師である南條さんに訪問看護の現状と高齢心不全患者の在宅医療についてお話いただきました。訪問看護に対する並々ならぬ熱意を感じるお話で、その熱量は会場が圧倒されるほどであり、このような方がこの地域におられることは非常に幸福なことであると感じました。また、「その人らしく在る」ということを非常に大切にされており、このレインボープロジェクトの理念にもつながるもので、非常に素晴らしい講演であったと思います。ご参加いただきました各病院および医院の先生方、看護師、薬剤師をはじめとするメディカルの皆様、本当にありがとうございました。

さて、第2回目の北河内心疾患多職種勉強会は、「虚血性心疾患の二次予防を考える」というテーマで、平成30年2月に開催させていただきたいと思います。寒い時期ではありますが、皆様のご参加を心よりお待ちしております。



循環器内科 医長
山本 貴士



X線骨密度装置について

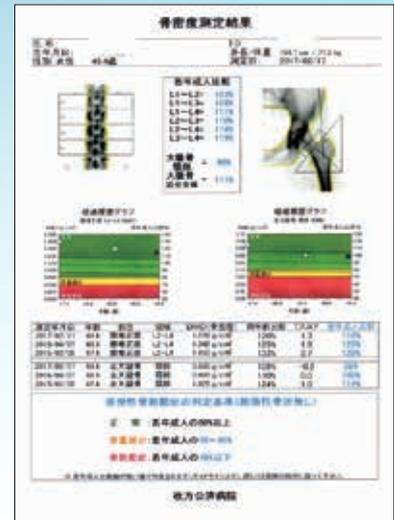
先生方には平素より当院放射線検査をご依頼いただき、誠にありがとうございます。

最近テレビコマーシャル等で、骨粗しょう症によるいつの間にか骨折が取り上げられるようになりました。骨粗鬆症の患者様は国内で推定 1000 万人（1300 万人とも言われていわれています）。しかし実際に治療を受けているのは 200 万人に過ぎないと言われていています。潜在患者に診断・治療を提供すると同時に、発病前兆候を発見し積極的に予防していくことも、QOL の維持・向上には重要です。

当院で、2014 年 1 月から稼働している GE 社製 PRODIGY X 線骨密度装置についてご紹介させていただきます。



本装置の撮影機能の特長として、ナローファンビームを垂直照射することにより拡大誤差の解消・検査の効率 UP・低被曝・検査時間の短縮が可能で、検査後は通常解析結果以外に病院独自の印刷フォーマットを作成することにより、右記のような高齢の患者様でもわかりやすいレポートを提供すること可能です。



● 躯幹骨二重エックス線吸収法 (DXA 法)

二重エネルギー X 線吸収測定法 (dual-energy X-ray absorptiometry) は、2 種類のエネルギーの X 線を測定部位に当てることにより骨成分を他の組織と区別して測定する方法です。測定する骨は、腰椎、大腿骨頸部などです。誤差が少なく、測定時間が約 1 分程と短く、放射線の被曝量も少ないという利点があります。このため DXA 法は、骨量測定の標準方法として重視され、骨粗鬆症の精密検査や、骨粗鬆症の治療効果の経過観察、また骨折の危険性予測に有用なものとなっています。

検査用語の説明

BMD (Bone Mineral Density) : 骨密度 = 骨量 ÷ 面積 (単位 g/cm²)

BMC (Bone Mineral Content) : 骨塩量 (単位 g)

Area : 面積 (単位 cm²)

日本の指標用語 (日本骨代謝学会から)

- ・若年成人比較% (YAM = Young Adult Mean) : 若年齢の平均 BMD 値 (基準値) を 100% として、被験者 BMD 値と比べて%をだしたもの。骨粗鬆症診断基準に用いられる。
- ・同年齢比較% : 同年齢の平均 BMD 値を 100% として、被験者 BMD 値と比べて%をだしたもの。骨粗鬆症診断には用いられない。(年齢とともに平均値が下がるため)
- ・診断基準 : 正常 / YAM の 80% 以上 骨減少症 / YAM の 70 ~ 80% 骨粗鬆症 / YAM の 70% 未満

世界の指標用語 (WHO (世界保健機関) から)

- ・T スコア : 若年齢の平均 BMD 値 (基準値) を 0 として、標準偏差を 1SD として指標を規定した値をいう。骨粗鬆症診断基準に用いられる。
- ・Z スコア : 同年齢の平均 BMD 値を 0 として、標準偏差を 1SD して指標を規定した値をいう。骨粗鬆症診断には用いられない。(年齢とともに平均値が下がるため)

診断基準 : 正常 / T スコアが -1SD 以上 骨減少症 / T スコアが -1 ~ -2.5SD 骨粗鬆症 / T スコアが -2.5 以下

* 標準偏差 : SD (standard deviation)

通院中の患者様で、骨密度検査のご依頼がありましたら、月~金曜の 11:30・14:00・15:00 (撮影時間約 10 分) で検査予約を行っておりますのでよろしくお願いいたします。

多焦点レンズのご案内



眼科 部長
鵜木 則之

平素は、当院の地域医療連携にご協力いただきまして、誠にありがとうございます。この度は、当院が厚生労働省認定の先進医療実施施設（多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術）に登録されたことをご案内申し上げます。民間医療保険の先進医療特約など加入されており、認定施設での多焦点眼内レンズを用いた白内障手術をご希望の患者さんなど居られましたら、紹介先としてご検討いただければ幸いです。また、以前より硝子体手術装置 Constellation[®] 広角眼底観察システム Resight[®]を導入し、積極的に硝子体手術を行っております。網膜剥離、増殖性糖尿病網膜症、硝子体出血、黄斑上膜、黄斑円孔等々、でお困りの患者さんが居られましたら、従前通りご紹介お願い申し上げます。

※ご紹介の際は当院ホームページにございます予約申込票を連携室まで FAX くださいますようお願いいたします。

地域医療連携室 FAX. 0120-002-122 (072-808-0020)
TEL. 0120-002-102 (072-808-0010)

理念と基本方針

理念 医療への貢献と奉仕

基本方針

- 地域における中核病院として、快適な療養環境と高度な医療を提供する。
- 患者さんの立場を尊重した合理的かつ安全な医療を行う。
- 病院は働き甲斐のある職場を整備し、職員は知識と技術の研鑽に励む。
- 強く、優しく、頼れる病院を目指す。



国家公務員共済組合連合会
枚方公済病院

〒573-0153 大阪府枚方市藤阪東町1丁目2番1号
 TEL 072 (858) 8233 FAX 072 (859) 1093
<http://kkh-hirakoh.org/>